

# 日本CLIL教育学会 第1回大会 シンポジウム2

## 日本語教育とCLIL ビジネス日本語教育へのCLIL適用の可能性

2018年7月14日(土)

目白大学大学院

日本語・日本語教育専攻

坂本孝之

# 議題

- はじめに
- ビジネス日本語教育をめぐる背景
- 企業サイドから見た場合の日本語教育とは
- ビジネス日本語教育の現状
- 企業内教育の実例
- 企業内日本語教育へのCLIL適用の可能性

# はじめに

## • 自己紹介

- 外資系技術コンサルティング企業に20年以上勤務(~2008)
- 現在、IT企業の経営者(2008~)
- 目白大学大学院日本語教育専攻(2016~)
  - 社会言語学的アプローチによるビジネス日本語に関する研究
  - CLILを適用した言語学習手法(日本語、英語)の研究

## • ビジネス日本語とは

- 外国人(非母語話者)が日本の企業等で仕事をするために必要な日本語の言語能力
- 言語形式の知識だけではなく、企業という環境・文脈における適切な日本語の言語使用能力
- なぜ、ビジネス日本語の教育にCLILを適用するのか  
→本プレゼンテーションの目的

# ビジネス日本語教育をめぐる背景(1/3)

- 日本経済の成長のための高度人材の確保
  - 現在、経済のグローバル化に伴い、世界的な人材獲得競争が繰り広げられている。
  - また、日本国内の少子化、日本経済の国際競争力の低下、及び若者の内向き志向傾向などを背景として、日本における**高度人材の必要性が高まっており、こうした人材の確保が課題**となっている。
  - 2015年6月30日に閣議決定された「『日本再興戦略』改訂2015」では、**優秀な外国人材の受け入れ**、特に「海外の最新の知見と国内トップレベルの知見の融合によるイノベーションを促進する観点から」IT人材の受け入れに重点を置くべきとされた。

平成28年版 通商白書 日本を活かして世界で稼ぐ力の向上のために

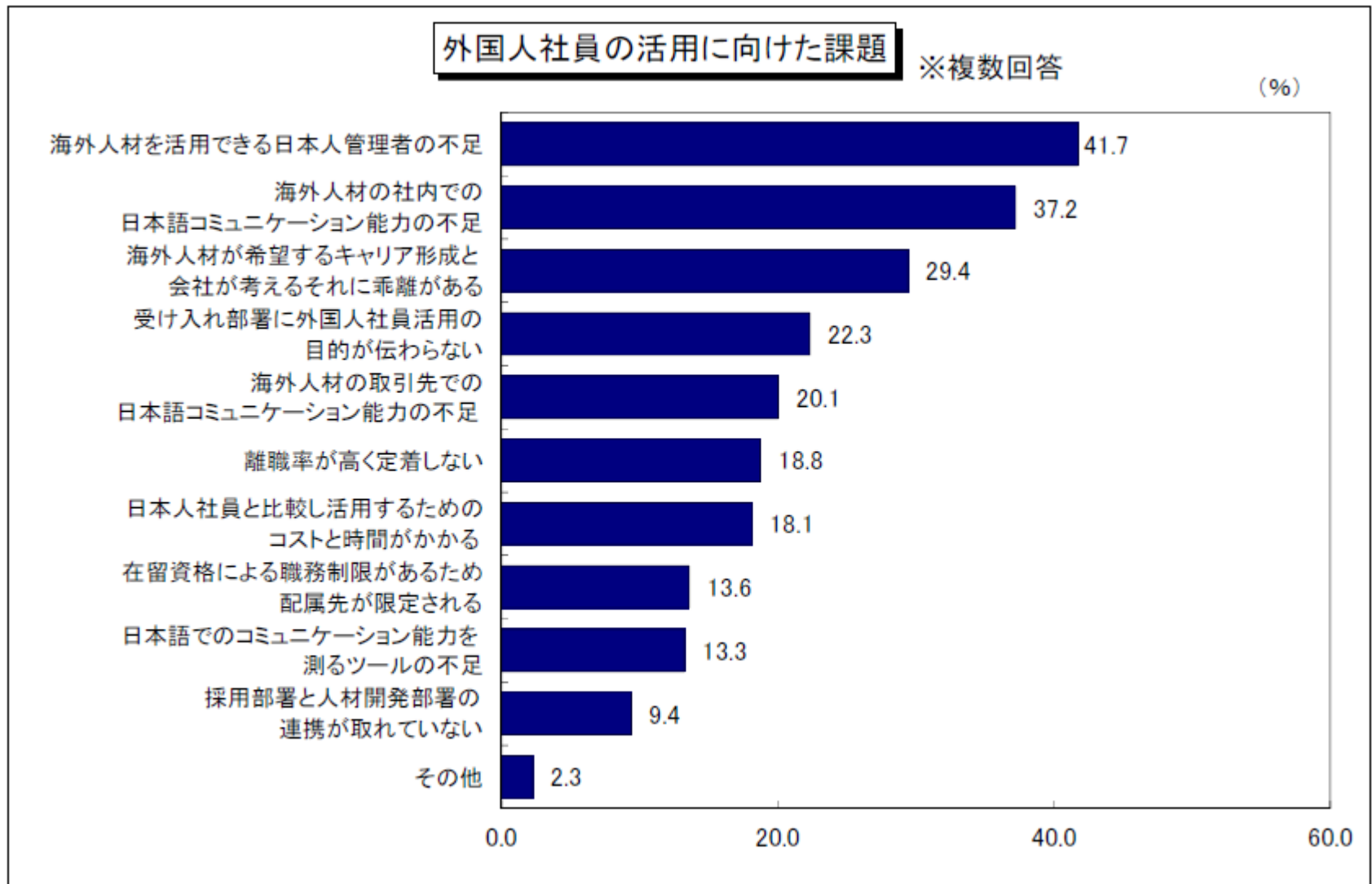
# ビジネス日本語教育をめぐる背景(2/3)

- 留学生への就職支援と課題

(留学生の就職希望と就職率の低迷)

- 日本の大学への留学生のうち、卒業後に日本へ就職した者の割合をみると、世界経済危機直後の2009年度の卒業生(2010年3月卒業者)では約22%まで落ち込んだが、2013年度の卒業生(2014年3月卒業者)の数値では約28%に上昇し、日本の企業における採用ニーズが回復していることが伺える。他方、就職率のピークであった2006年度の約46%からは低くとどまっている。
- 日本企業における外国人材の採用が増加している傾向があるが、日本での就職を望む人材はそれを大きく上回っており、優秀な人材が取りこぼされている可能性が示唆されている。

# ビジネス日本語教育をめぐる背景(3/3)



「外国人留学生の採用に関する企業調査」 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

# 企業サイドから見た日本語教育とは

- 対象：
  - 外国人社員（日本語非母語話者）
- 目標：
  - 企業目標達成のための企業活動（仕事や研修等）を実施するのに必要な日本語能力の習得
  - 専門日本語及び企業活動に必要なコミュニケーションの習得
  - 日本人社員と同様に企業の人材資産として育成すること
- 達成要件：
  - 日本人社員（母語話者）に対して実施しているのと同じ、①管理②指導③人材育成が適用可能な、日本語能力のレベル（言語形式、言語使用）

# ビジネス日本語教育の現状 (日本語学校での教育)

- 日本語学校が提供している日本語の授業の1つ
- ほとんどの学習者は、日本企業への就職を目標としている
- しかし、授業の主要な内容は、日本企業におけるビジネス実務マナー等の学習である。



# 企業内日本語教育の実例

- 介護事業:

- ① 母国にて介護資格や介護経験のある人材が、日本語(初級～中級)を学習
- ② 来日後、現場での仕事の前に**介護研修**を受ける(専門講師、日本語教師の両名体制で実施)

- 製造業:

- ① 母国にある子会社にて母語で仕事(作業)をしながら、日本語(初級～中級)を学習
- ② 来日後、親会社での仕事(作業)について**指導と研修**を受ける(専門講師、日本語教師の両名体制で実施)

②はコンテンツ(専門知識・技術)と言語(日本語)を同時に習得するトレーニング →CLILを適用した授業ができないか

# 企業内コミュニケーションの実例

## 就職面接

面接者(留学生)の意識	就職面接時における談話	面接官の意識
	<p><u>1)面接官の発言</u> 日本で就職したい理由は何ですか</p>	
<p>学生A:小さい頃から日本のアニメや音楽が好きで、働くなら日本がいいと思っていました。日本の良いところをアピールして良い印象を与えようと思いました。</p>	<p><u>2)面接者の発言(学生A)</u> 日本は清潔で安全な国だからです</p>	<p>他の国ではなく、日本で働きたい必然的な理由を聞いているわけなのに、単純に日本が気に入っているとしか思えない。 大地震があったら、仕事を投げ出して帰国したりするんじゃないかな。</p>
<p>学生B:母国よりも進んでいる日本のIT技術を是非とも習得したいので日本での就職を決意しました。</p>	<p><u>3)面接者の発言(学生B)</u> 日本の企業で一流の技術者になりたいので、どんなことがあっても、与えられた仕事を全うします</p>	<p>日本の企業で何をしたいのか目的が明確になっている感じがする。</p>

# 企業内コミュニケーションの実例

## 就職面接

面接者(留学生)の意識	就職面接時における談話	面接官の意識
	1)面接官の発言	

企業内コミュニケーションのトレーニング：  
その状況(場所・時期・相手・背景・目的)における  
適切な会話(相手の発言を理解し意味を推測した  
上での自分の適切な発言)

→CLILを適用した授業ができないか

いる日本のIT技術を是非とも習得したいので日本での就職を決意しました。	日本の企業で一流の技術者になりたいので、どんなことがあっても、与えられた仕事を全うします	か目的が明確になっている感じがする。
-------------------------------------	--	--------------------

# 企業内日本語教育へのCLIL適用の可能性の研究

- **目標: 日本企業の求める人材の採用と育成**

→企業の採用や研修など人材育成制度を基に実施している人材育成教育を、外国人(非母語話者)に適用すること

- **教育手法研究のアプローチ**

→実現可能にする仕組みをどのように構築するか

CLIL(4C)メソッドが適用可能か？

対象業務(コンテンツ)を主題として、関連部署と適宜連絡(コミュニケーション)を取りながら、適切に相手に働きかけ主体的に行動するにはどうしたらいいかを自分で考え(コグナイズ)、日本企業の理念や慣習を鑑みながら(コミュニティ)、学習していく教授法の可能性の研究

- **誰が教えるのか**

- 企業の専門科目教育担当者(日本語ネイティブ)に、日本語教育手法の指導・トレーニングを実施した上で、専門科目教育担当者が教育する
- 企業の管理者にも、日本語教育手法の指導・トレーニングを受けてもらい、OJT研修等にて実践的に教育する